

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	57人	算数	59人	理科	59人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
------	----	-----	----	-----	----	-----

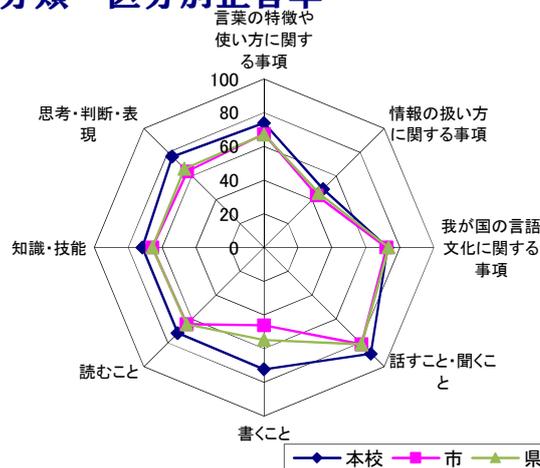
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.9	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	49.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	72.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	89.1	81.2	81.2
	書くこと	72.3	46.2	54.9
	読むこと	71.8	64.3	64.5
観点	知識・技能	71.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	76.3	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

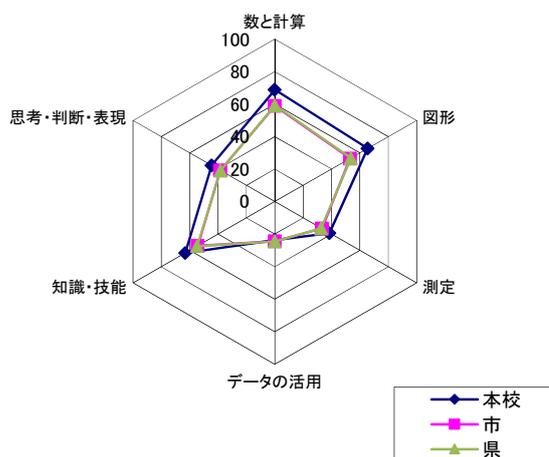
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>校内正答率は73.9%で、市の平均より6.5ポイント、県の平均より6.8ポイント高い。</p> <p>○「漢字を正しく書く(洋服)」の正答率は、72.7%で、市の平均よりも18.2ポイント高い。</p> <p>●「多い」の対義語を選ぶ問題の正答率は80.0%で、市の平均よりも2.8ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も漢字の確認テストを行って復習の機会を設けたり、日記や作文などで実践的に漢字を使う場を設けたりする。</li> <li>・さらに語彙力を高めるために、引き続き読書を推奨したり、類義語・対義語の問題を作って出し合う活動を設けたりする。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>校内正答率は、49.1%で、市の平均より5.3ポイント、県の平均より3.4ポイント高い。</p> <p>○「例文で用いられた『うすい』の意味として適するものを選ぶ」問題の正答率は49.1%で、市の平均よりも5.3ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、積極的に国語辞典を活用する機会を設ける。</li> <li>・読書を推奨し、語彙力を高めたり、言葉の意味が複数あることに気付かせたりしていく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>校内正答率は、72.7%で、市の平均よりも0.6ポイント高いが、県の平均よりも0.7ポイント低い。</p> <p>○「漢字のへんとつくりを正しく組み合わせる既習の漢字をつくる」問題の正答率は72.7%で、市の平均よりも0.6ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、漢字ドリルやAドリルを活用し、繰り返し学習に取り組むことで定着を図っていく。</li> <li>・新出漢字を学習する際には、へんとつくりを意識させたり、漢字クイズを作り出し合ったりして、楽しみながら我が国の言語文化に触れる機会を設けていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は89.1%で、市や県の平均より7.9ポイント高い。</p> <p>○「参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言として適するものを選ぶ」問題の正答率は90.9%で、市の平均より13.5ポイント高い。</p> <p>○「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかを問う」問題の正答率は89.1%で、市の平均よりも7.8ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、根拠を明確にして自分の考えを伝え合う授業を展開していく。</li> <li>・児童が司会を務める話し合い活動を行う際には、司会者の役割や進行の仕方を確認する。</li> <li>・話し手の意図していることを考えて聞くよう、日常的に指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>校内正答率は72.3%で、市の平均より26.1ポイント、県の平均より17.4ポイント高い。</p> <p>○「指定された長さで文章を書く」問題の正答率は78.2%で、市の平均よりも27.1ポイント高い。</p> <p>○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」問題の正答率は74.6%で、市の平均よりも26.0ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、文章を書く際に、行数や段落、キーワードなどの条件を指定して書く学習に取り組む。</li> <li>・行事における作文指導や日記指導を通して、伝えたい相手や内容に応じた文章構成について指導していく。</li> </ul>
読むこと	<p>校内正答率は71.8%で、市の平均より7.5ポイント、県の平均より7.3ポイント高い。</p> <p>○「文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く」問題の正答率は81.8%で、市の平均より20.2ポイント、県の平均よりも17.5ポイント高い。</p> <p>○「叙述を基に段落の内容を捉える」問題の正答率は70.9%で、市の平均より18.5ポイント高い。</p> <p>●「指示語の内容として適するものを選ぶ」問題の正答率は、56.4%で、市の平均よりも7.5ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、物語文の学習では、叙述を基に、登場人物の性格や登場人物同士の関係、場面の様子について捉えられるように指導していく。</li> <li>・読書の機会を意図的に設けたり、読み聞かせを定期的に行ったりして語彙を増やしていく。</li> <li>・文章を読む際に、指示語とそれを表す内容について問いかけたり、それらを線で結ぶ活動を取り入れたりする。</li> </ul>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】 分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.8	58.9	59.2
	図形	65.5	53.0	53.7
	測定	38.6	33.1	32.6
	データの活用	23.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	63.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	44.6	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

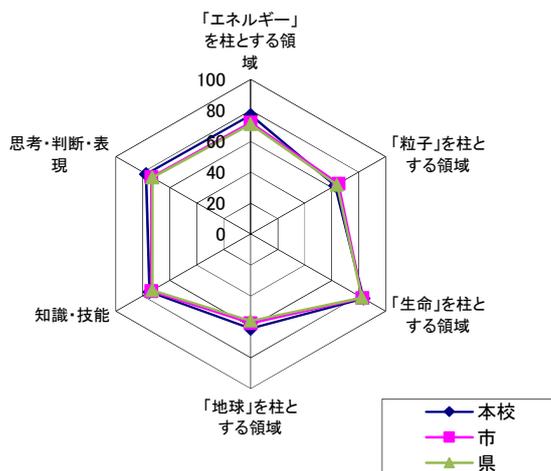
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は68.8%で、市の平均より9.9ポイント、県の平均より9.6ポイント高い。</p> <p>○「整数—小数第一位の計算をする」問題の正答率は76.4%で、市の平均より20.4ポイント高い。</p> <p>○「同分母の分数のかけ算について、計算のしかたを説明する」問題の正答率は60.0%で、市の平均より23.2ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習を充実させたり、上央小算数検定を活用したりして、数と計算の力を伸ばしていく。</li> <li>・AIDリルを朝の学習や授業、家庭学習などで活用する。</li> <li>・計算ができるようにするだけでなく、そこにたどり着くまでの過程を大切に授業を展開する。</li> <li>・パワーアップシートを活用し、様々な問題を解く力を養う。</li> </ul>
図形	<p>校内正答率は65.5%で、市の平均より12.5ポイント、県の平均より11.8ポイント高い。</p> <p>○「球の半径を利用して箱のたての長さを答える」問題の正答率は61.8%で、市の平均より11.2ポイント高い。</p> <p>○「円の性質を利用して正三角形を作図する」問題の正答率は61.8%で、市の平均より22.9ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させる。</li> <li>・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。</li> <li>・基礎的な知識を応用して問題を解き、図形の性質を活用する力を伸ばす。</li> </ul>
測定	<p>校内正答率は38.6%で、市の平均より5.5ポイント、県の平均より6.0ポイント高い。</p> <p>○「はかりの目盛りを読みとり、重さを答える」問題の正答率が40.0%で、市の平均より14.0ポイント高い。</p> <p>○「重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較することができるかどうかをみる」問題の正答率は32.7%で、市の平均より6.4ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1km=1000m, 1kg=1000g, 1t=1000kgのようなメートル法の仕組みを単位の意味から理解させたり、生活の中から問題を見つけて問題を作ったりして、児童の学習意欲を高める。</li> <li>・前後の時刻や時間の経過から途中の時間を求められるよう、時計や数直線を活用する力を身に付ける。</li> <li>・目盛りの読み方について、何cm(g)より大きく何cm(g)より小さいと見当をつけて読み取ることができるように指導する。</li> </ul>
データの活用	<p>校内正答率は23.6%で、市の平均より0.8ポイント、県の平均より1.0ポイント低い。</p> <p>●「棒グラフを読み取り、落とし物の数が一番増えた種類を答える」問題の正答率は9.1%で、市の平均より6.1ポイント低い。また、無回答率が38.2%と高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棒グラフの1目盛りの大きさに気を付けながら数を読み取らせる。</li> <li>・それぞれの棒グラフが、何を表しているかを読み取り、示されたテーマについて適切な棒グラフを選ぶ力を身に付ける。</li> <li>・算数はもとより他教科においても、実際にグラフを読んだり、かいたりする活動を取り入れ、様々なグラフを読み取る力を身に付けていくようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.9	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	62.7	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	83.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	61.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	75.0	73.8	72.8
	思考・判断・表現	77.6	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内正答率は76.9%で、市の平均より4.8ポイント、県の平均より5.9ポイント高い。</p> <p>○「車を動かすために利用した磁石の性質を選ぶ」問題の正答率は81.8%で、市の平均より18.1ポイント高い。</p> <p>○「車が動くと考えられる距離を選ぶ」問題の正答率は81.8%で、市の平均より8.9ポイント高い。</p> <p>●「風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える」問題の正答率は63.6%で、市の平均より1.9ポイント高いが、無回答や関係のない解答をした児童もいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物質・エネルギー」についての基本的な概念や性質は理解できているため、今後も実験を丁寧に行う。</li> <li>・実験結果から読み取る力を高めるために、結果のどこに着目したらよいか示したり、まとめる際に使うとよい言葉を提示したりする。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内正答率は62.7%で、市の平均より2.5ポイント、県の平均より1.2ポイント低い。</p> <p>●「体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える」問題の正答率は38.2%で、市の平均より4.1ポイント低く、無回答率が9.1%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の形や体積と重さの関係について、考えたり、説明したりする活動を充実させ、自分の言葉で表現できるように指導する。</li> <li>・理科の用語について、授業の中で実物を示しながらイメージできるようにしたり、正しい用語を使って指導したりする。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<p>校内正答率は83.6%で、市の平均より0.8ポイント、県の平均より1.2ポイント高い。</p> <p>○「モンシロチョウのあしがついている部分を選ぶ」問題の正答率は94.6%で、市の平均より6.7ポイント大きく上回った。</p> <p>●「虫めがねの正しい使い方をを選ぶ」問題の正答率は40.0%で、市の平均より15.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫めがねを使う活動の際には、使い方について繰り返し指導をし、正しい使い方の技能を身に付けられるようにする。</li> <li>・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生き物の実態を正しく理解できるように指導する。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<p>校内正答率は61.2%で、市の平均よりポイント3.5ポイント低く、県の平均より5.0ポイント高い。</p> <p>○「太陽が動く方位を選ぶ」問題の正答率は67.3%で、市の平均より12.2ポイント高い。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方をを選ぶ」問題の正答率は41.8%で、市の平均より5.5ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の実験用具の名称や、正しい使い方について、繰り返し指導していく。</li> <li>・実験用具の使い方や方位について、視覚的にも分かりやすく捉えられるような環境を整え、実感を伴って理解できるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が80.0%で、県の平均を15.7ポイント上回っている。今後も、1人1台端末や本を活用して、学習に関する正しい情報を得られるようにしていく。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が98.4%で、県の平均より2.5ポイント高い。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が90.0%で、県の平均より5.8ポイント高く、学習の楽しさを感じることができるとともに、学習が将来のためになっていると捉えて、前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが伺える。今後も、学習のよさや必要性を伝え、児童の学習意欲の向上を図っていく。

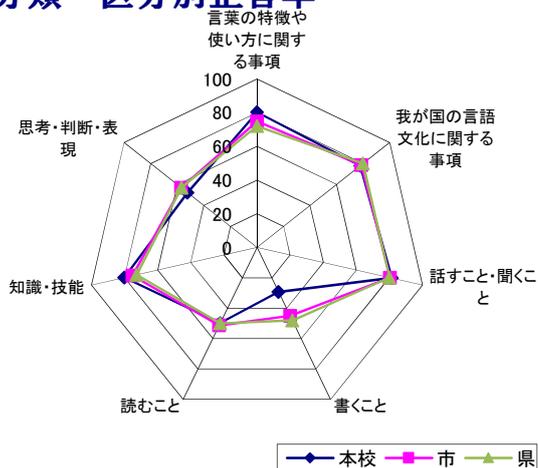
●「家で、学校の授業の予習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が53.3%で、県の平均より7.3ポイント低い。さらに、「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が61.6%で、県の平均より6.4ポイント低い。自主的に家庭学習に取り組む意識が乏しいと考えられる。家庭学習の内容を充実させるためにも、地域学校園で作成している「学習のすすめ」をもとに、自分で見通しをもって取り組めるように働きかけていく。また、家庭学習チャレンジ週間を通して、予習復習のよさを伝えたり、計画的に予習・復習に取り組む習慣を付けたりしていく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が70.0%で、県の平均より7.5ポイント低い。「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が63.3%で、県の平均より15.1ポイント低く、自ら課題を解決しようとする意識が欠けていると思われる。話し合い活動を通して自分の考えを伝える機会を増やすとともに、課題解決に向けて友達のことを聞いたり、先生に質問したりすることのよさを感じられるようにしていく。

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	77.8	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.3	80.4	80.0
	書くこと	29.2	45.1	48.0
	読むこと	49.7	51.3	50.0
観点	知識・技能	80.1	75.2	72.8
	思考・判断・表現	52.4	57.0	57.0



## ★指導の工夫と改善

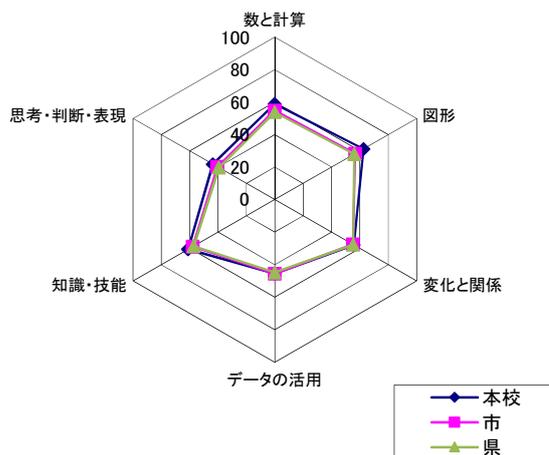
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>校内正答率は80.3%で、市の平均より5.5ポイント高く、県の平均より8.3ポイント高い。</p> <p>●「『湖を』を修飾している言葉を選ぶ」問題の正答率は52.8%で、市の平均より24.2ポイント低い。</p> <p>○漢字の読み書きの問題では、ほぼ全ての問題において市の平均を上回った。</p>	<p>・修飾と被修飾の関係について、簡単な例を挙げ、図解から理解させたり、自ら修飾語のある短文を作ったりすることで身に付けさせていく。</p> <p>・漢字については、今後もAIDリルや漢字ドリルで繰り返し練習して身に付けさせるとともに、生活の中で使えるようにしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	今年度は設問なし。	
我が国の言語文化に関する事項	<p>校内正答率は77.8%で、市の平均より0.8ポイント、県の平均より2.1ポイント低い。</p> <p>●「慣用句の使い方を理解し、『頭をひねる』を正しく使っている人物を選ぶ」問題の正答率は77.8%で、市の平均より0.8ポイント低い。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習を利用して、ことわざ・慣用句の学習にも取り組むことができるよう日常的に呼びかけていく。</p> <p>・身近なことわざ・慣用句を教室内に掲示しておき、学校生活で類似した場面が見られたときは引用して、文章作りに挑戦させるなど、触れる機会を多く設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は81.3%で、市の平均より0.9ポイント、県の平均より1.3ポイント高い。</p> <p>●「参加者の発言内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」問題の正答率は58.3%で、市の平均より6.2ポイント低い。</p> <p>○「話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ」問題では、正答率が100%で、市の平均より11.9ポイント高い。</p>	<p>・朝のスピーチや、話すこと・聞くことの単元のスピーチ(CD)を聞いた際に、話し手が伝えた内容を正しく理解してまとめる活動や、話し手に聞き返して確認する活動を取り入れる。</p> <p>・聞き取りの問題については、必要なことを端的にメモして話の内容の全体を捉えることができるよう、指導を続けていく。</p> <p>・他者の意見を聞く際には、自分の意見と比べながら聞くことの意識付けを図っていく。</p>
書くこと	<p>校内正答率は29.2%で、市の平均より15.9ポイント、県の平均より18.8ポイント低い。</p> <p>●「あいさつについてのアンケート結果を読み、二段落構成で文章を書く」問題の正答率は22.2%で、市の平均よりも18.8ポイント低い。</p> <p>●無回答率は22.2%であり、書くことへの苦手意識があることや時間内に解答できなかったことを表している。</p>	<p>・文章を書く際に、書き方の留意点(指定された字数や段落、キーワードを使うなど)を踏まえて書く練習を行う。</p> <p>・文集「うつつのみや」の同学年の作文を例に取って、段落を分けることの必要性を理解させる。</p>
読むこと	<p>校内正答率は49.7%で、市の平均より1.6ポイント、県の平均より0.3ポイント低い。</p> <p>●「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ」問題の正答率は63.9%で、市の平均より8.9ポイント低い。</p> <p>○「段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ」問題の正答率は47.2%で、市の平均より7.8ポイント高い。</p>	<p>・物語文の読解では、登場人物の関係を図で示したり、本文から登場人物の行動や性格が分かる言葉に線を引き、そこから分かることを話し合う活動を取り入れたりする。</p> <p>・文章を読む際には、段落の内容ごとのまとまりを必ず意識させ、段落同士の相互関係を図で表す活動を取り入れる。</p>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.9	54.9	53.7
	図形	62.5	56.6	56.1
	変化と関係	55.6	55.1	55.2
	データの活用	45.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.1	57.8	57.2
	思考・判断・表現	43.7	40.6	39.5



## ★指導の工夫と改善

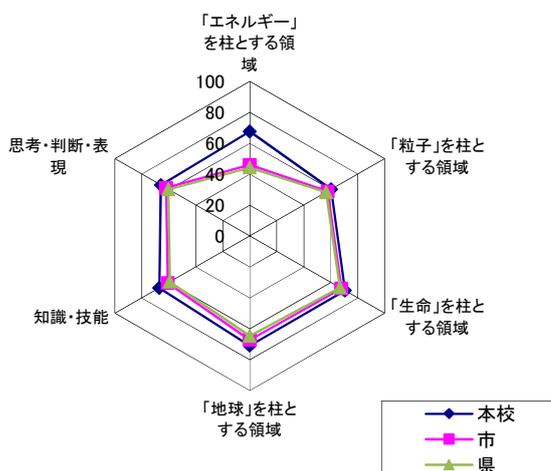
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は58.9%で、市の平均より4.0ポイント、県の平均より5.2ポイント高い。</p> <p>●「小数の大きさについて説明する」問題の正答率は19.4%で、市の平均より13.5ポイント低い。</p> <p>○「数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す」問題の正答率は66.7%で、市の平均より10.9ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の仕組みを理解し、もとにする数の何個分かで表せるように指導していく。</li> <li>・引き続き、上央小算数検定などの朝の学習や家庭学習を通じて、基礎的な内容の習得に力を入れていく。</li> <li>・ペア学習やICTを利用した学習などを用いて対話的学習を行うなど工夫することで、説明する力の習熟を図る。</li> </ul>
図形	<p>校内正答率は62.5%で、市の平均より5.9ポイント、県の平均より6.4ポイント高い。</p> <p>○「直方体の面に垂直な辺をすべて答える」問題の正答率は75.0%で、市の平均より14.0ポイント高い。</p> <p>○「平行四辺形の作図をする」問題の正答率は52.8%で、市の平均より10.9ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の学習では、ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。</li> <li>・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させると同時に、三角定規の角度についての知識を定着させる。</li> </ul>
変化と関係	<p>校内正答率は55.6%で、市の平均より0.5ポイント、県の平均より0.4ポイントとわずかに高い。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題の正答率は30.6%で、市の平均より10.8ポイント低い。</p> <p>○「割合を使った比べ方について説明する」問題の正答率は44.4%で、市の平均より13.1ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基にする量を1と見たときの、比べられる量の表し方について習熟を図る。</li> <li>・数字を使った式だけでなく、○や□などの記号や言葉を使って式を立てる場面を授業の中でも取り入れるようにすることで、伴って変わる2つの数量関係を捉えられるようにする。</li> </ul>
データの活用	<p>校内正答率は45.6%で、市の平均より0.1ポイント、県の平均より0.8ポイントとわずかに高い。</p> <p>●「グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する」問題の正答率は2.8%で、市の平均より6.6ポイント低い。また、無解答率が52.8%と高かった。</p> <p>○「グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ」問題の正答率は50.0%で、市の平均より4.0ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループ学習などを取り入れて、対話的学習を行うなど工夫することで、表やグラフの見方を養う。</li> <li>・算数はもとより他教科においても、実際にグラフを読んだり、かいたりする活動を取り入れ、様々なグラフを読み取る力を身に付けていくようにする。</li> <li>・キーワードを使って、分かったことを文章表現する学習を取り入れていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	60.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	71.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	67.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.0	62.1	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内正答率は67.6%で、市の平均より21.6ポイント、県の平均より23.3ポイントと大きく上回った。</p> <p>○「並列つなぎの名称を答える」問題の正答率は86.1%で、市の平均より25.8ポイント高い。</p> <p>○「電流が同じ大きさの回路を選ぶ」問題の正答率は72.2%で、市の平均より25.8ポイント高い。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られてきたので、今後は、課題を追究する中で主体的に問題解決しようとする態度を育てていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内正答率は60.3%で、市の平均より2.6ポイント、県の平均より3.7ポイント高い。</p> <p>○「とじこめた空気の手ごたえの変化について答える」問題の正答率は100.0%で、市の平均より14.1ポイント高い。</p> <p>●「仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶ」問題の正答率は25.0%で、市の平均より5.2ポイント低い。</p>	<p>・科学的根拠と実生活とを関連付けた授業を展開できるよう、指導の改善を図っていく。</p> <p>・授業を通して、自分なりの根拠のある予想や仮説を発想し表現できるように指導を工夫する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>校内正答率は70.6%で、市の平均より2.8ポイント、県の平均より3.7ポイント高い。</p> <p>○「春以外の季節の記録を選ぶ」問題の正答率は94.4%で、市の平均より20.3ポイント高い。</p> <p>●「ヒョウタンののびを正しく表したグラフを選ぶ」問題の正答率は61.1%で、市の平均より19.3ポイント低い。</p>	<p>・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生き物の実態を正しく理解できるように指導する。</p> <p>・季節ごとに植物を観察する際に、観察の視点を与え、記録を蓄積したり前回との変化を見える化したりして、季節と植物の様子を理解できるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>校内正答率は71.0%で、市の平均より3.8ポイント、県の平均より6.4ポイント高い。</p> <p>○「蒸発の名称を答える」問題の正答率は72.2%で、市の平均より14.3ポイント高い。</p> <p>●「水蒸気が冷やされることで水になることを答える」問題の正答率は38.9%で、市の平均より14.8ポイント低い。</p>	<p>・科学的根拠と実生活とを関連付けた授業を展開できるよう、指導の改善を図っていく。</p> <p>・キーワードを提示したり、身の回りにある様々な場面と結びつけたりしながら、根拠を基にして説明する力を育てられるようにする。</p>

## 宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問では、児童の肯定的な回答が90.7%で、県の平均より15.5ポイント高い。また、「家で、学校の授業の予習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が76.8%で、県の平均より21.4ポイント高い。さらに、「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.1%で、県の平均より11.3ポイント高い。地域学校園で作成している「学習のすすめ」をもとに、低学年の頃から指導を続けてきたことで、家庭学習に取り組む態度が育ってきていると思われる。今後も継続して家庭学習の充実を図っていきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答が93.0%で、県の平均より11.3ポイント高い。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問では、児童の肯定的な回答が81.4%で、県の平均より12.9ポイント高い。さらに、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問では、児童の肯定的な回答が65.1%で、県の平均より12.9ポイント高い。これらのことから、学習の楽しさを感じることができるとともに、自ら納得するまで調べたり、難しい問題にも挑戦したりする、前向きに学習しようとする力が育ってきていると思われる。今後も、学習の楽しさやおもしろさを感じられる授業の展開を考えていく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の質問では、児童の肯定的な回答が76.7%で、県の平均より10.5ポイント高い。教師や友達に認められると感じていることが考察できる。これからも、友達同士の認め合い活動や教師からの称賛の場面を増やすようにしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問では、児童の肯定的な回答が60.5%で、県の平均より3.1ポイント低い。授業の中で、1人1人が自分の考えをもち、文章に表す活動をしていく。また、振り返りのポイントを示すことで、授業の振り返りを充実させていく。

## 宇都宮市立上河内中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の習得	姿勢・話し方・聞き方等の学習のきまりを徹底させたり、朝の学習の時間を活用して、「上央小算数検定」や音読等の活動を実施したりしている。	5年生は、昨年度4年生だったときに、国語・理科の「知識・技能」の正答率が、市や県と比べて低かったが、今年度は、4・5年生ともに、3教科全ての「知識・技能」の正答率が、市や県の正答率を上回った。
「上央小授業スタンダード」の活用と学び合う活動の充実	全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開するようにしている。課題解決の場面では、ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定・工夫し、学び合う活動を充実させるようにしている。	4年生は、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」との質問に肯定的に回答した児童の割合が70.0%で、県の平均より7.5ポイント下回った。5年生は同じ質問に肯定的に回答した児童の割合が83.7%で、県の平均より5.0ポイント上回った。また、昨年度は、同じ質問に肯定的に回答した児童の割合が73.7%だったので、10.0ポイント増加した。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語のアンケート結果をふまえて、2段落構成で自分の考えを書く問題や、算数のグラフを読み取って変化の様子を説明する問題で、市や県の平均よりも大きく下回ったものがあった。無解答率も高かった。	書く活動の充実	朝の学習や宿題などで、キーワードを提示したり、文字数などの条件を付けたりして、文章を書く練習を行うようにする。また、各教科の学習において、グラフから分かることを考察して書いたり話し合ったりする活動や、友達の考えを聞いて自分の考えを整理して書く活動を取り入れていく。